

生駒市

【背景】

1 実施形態

- 個別検診 5月～翌年2月まで（50ヶ所）
（自己負担1,000円）
- 集団検診 5月～翌年3月まで
（4ヶ所、72回実施）
土日検診実施
（自己負担 300円）



2 周知方法

- ・対象者に個別通知（5がんの案内及び受診券）
- ・広報誌

3 受診率

H22年度	23.5%	（県平均 16.3%）
H23年度	18.0%	（県平均 17.4%）
H24年度	19.5%	（県平均 18.5%）

4 クーポン利用率（県の平均より上）

H23年度	9.18%	（県平均 12.88%）
H24年度	10.91%	（県平均 13.94%）

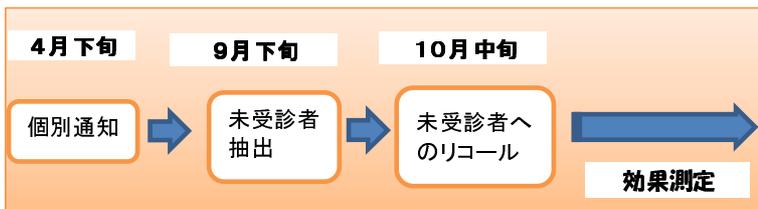
【モデル事業実施方法】

1 対象

大腸がん検診について、48歳、49歳の男女3000人
※罹患率が高いが、受診率が低い。（40～49歳）

また大腸がんは、検診費用が安価で、検体数が増えても対応が可能なため。

2 流れ



<取組内容>

- ・未受診者を抽出する。(4～8月までの受診者を除く。)
- ・国立がん研究センターがん研究開発費「ソーシャルマーケティングを活用したがん予防行動及びがん検診受診行動の普及に関する研究」研究班開発のリーフレットを活用して、生駒市大腸がん検診再勧奨用のリーフレットを作成する。
- ・3047名に再勧奨リーフレットを送付する。(10/8)

※生駒市では、例年5がん検診の個別通知を実施している。

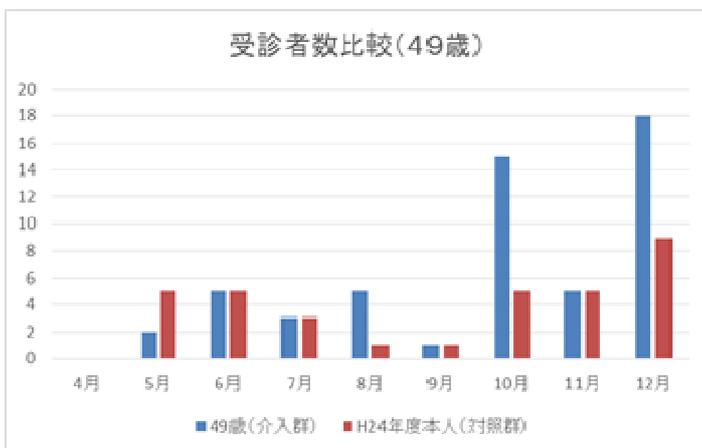
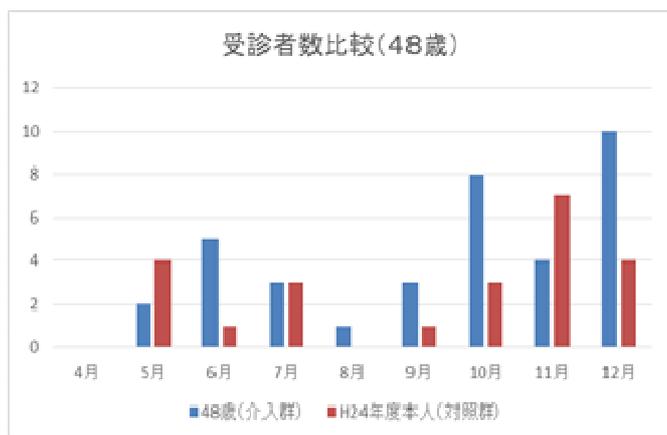
3 結果 再勧奨による効果

<12月分までの速報>

◆他年度本人比較

【月別受診者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
48歳(介入群)	0	2	5	3	1	3	8	4	10	36
H24年度本人(対照群)	0	4	1	3	0	1	3	7	4	23
49歳(介入群)	0	2	5	3	5	1	15	5	18	54
H24年度本人(対照群)	0	5	5	3	1	1	5	5	9	34

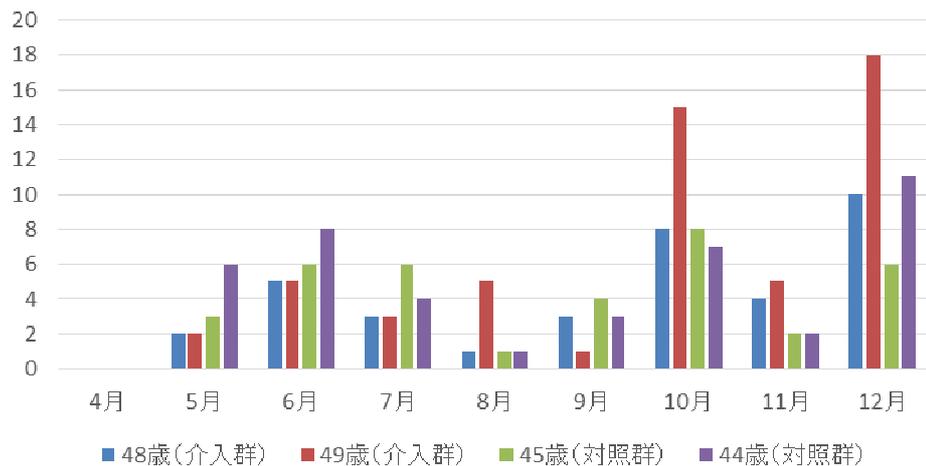


◆同一年度他年齢比較

【月別受診者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
48歳(介入群)	0	2	5	3	1	3	8	4	10
49歳(介入群)	0	2	5	3	5	1	15	5	18
45歳(対照群)	0	3	6	6	1	4	8	2	6
44歳(対照群)	0	6	8	4	1	3	7	2	11

受診者数比較



介入群(H25 年度)	受診率(H25 年 12 月)	対照群(H25 年度)	受診率(H25 年 12 月)	受診率の差
48 歳男	1.1%	45 歳男	1.9%	-0.8%
48 歳女	3.4%	45 歳女	1.8%	1.6%
48 歳男女	2.2%	45 歳男女	1.9%	0.3%
48 歳男	1.1%	44 歳男	1.3%	-0.2%
48 歳女	3.4%	44 歳女	3.1%	0.3%
48 歳男女	2.2%	44 歳男女	2.2%	0.0%
49 歳男	2.0%	45 歳男	1.9%	0.1%
49 歳女	5.0%	45 歳女	1.8%	3.2%
49 歳男女	3.5%	45 歳男女	1.9%	1.6%
49 歳男	2.0%	44 歳男	1.3%	0.7%
49 歳女	5.0%	44 歳女	3.1%	1.9%
49 歳男女	3.5%	44 歳男女	2.2%	1.3%

葛城市

【背景】

1 子宮がん検診の実施形態

個別検診 4月～翌年3月まで
(自己負担2,000円)

集団検診 6月～翌年2月までに半日×9回実施
土日検診実施、託児3回実施
(自己負担600円)

2 従来の周知方法

- ・ 広報誌
- ・ 40歳のみハガキにてがん検診の案内通知

3 再勧奨

クーポン対象者のみ実施(該当年度の1月初旬)

4 受診率

H22年度	19.9%	(県平均 19.2%)
H23年度	20.8%	(県平均 19.9%)
H24年度	19.9%	(県平均 19.9%)

5 クーポン利用率

H21年度	24.89%	(県平均 21.10%)
H22年度	31.87%	(県平均 25.17%)
H23年度	24.46%	(県平均 23.55%)
H24年度	27.36%	(県平均 24.18%)

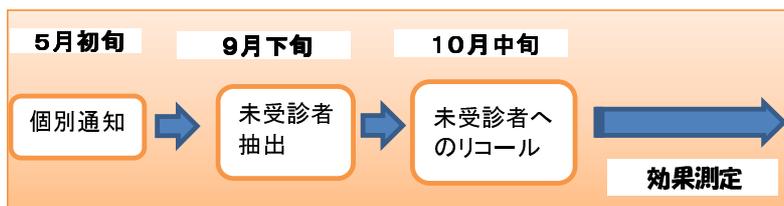
【モデル事業実施方法】

1 対象

子宮がん検診について、20～39歳の女性 3,249人(クーポン対象者を除く。)

※全国的に若い女性の子宮がんが増えているにもかかわらず、葛城市では若い女性の受診率が低い。

2 流れ



〇〇市にお住まいの20歳以上の女性の方へ

子宮頸がん検診のお知らせ



〇〇市 福祉保健部 健康推進課

<モデル取組内容>

- ・ 個別通知は、葛城市が作成した子宮がん検診の案内文及び受診券を送付する。(5/2)
- ・ 未受診者を抽出する。(4～8月までの受診者を除く。)
- ・ 国立がん研究センターがん研究開発費「ソーシャルマーケティングを活用したがん予防行動及びがん検診受診行動の普及に関する研究」研究班開発のリーフレットを活用して、葛城市子宮がん検診再勧奨用のリーフレットを作成する。
- ・ 3,002名に再勧奨リーフレットを送付する。(10/10)

<クーポン対象者>

- ・ 5月下旬に発送。(5/24)
(無料クーポン、検診手帳、がん検診受診勧奨チラシ、大腸がんのリーフレット)
- ・ クーポン未受診者の再勧奨 (1/6)
(はがきの送付)

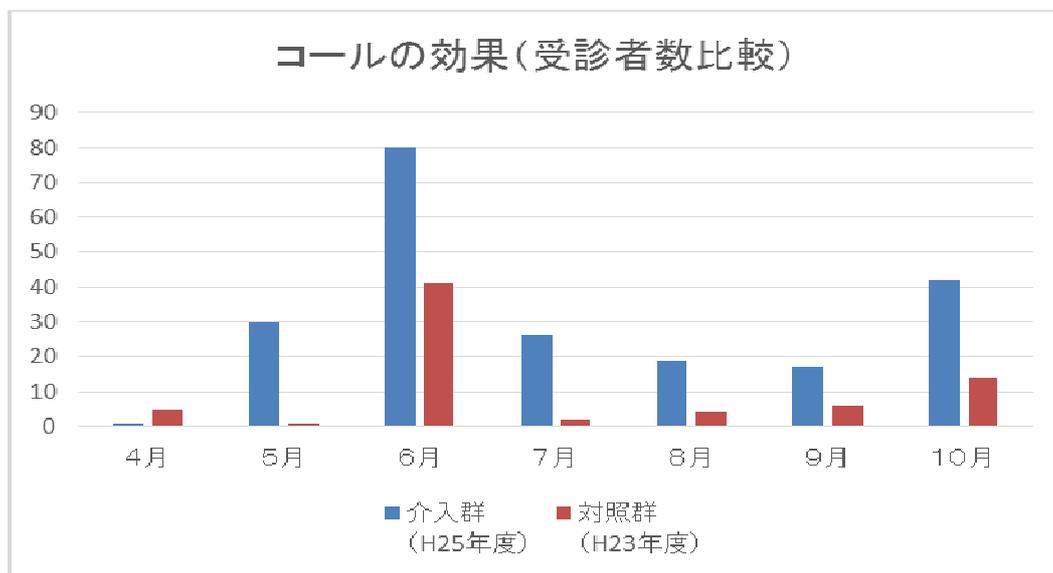
3 結果

1) 個別受診勧奨による効果

●月別受診者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
介入群 (H25年度)	1	30	80	26	19	17	42	215
対照群 (H23年度)	5	1	41	2	4	6	14	73

※モデル対象者は、20～39歳の女性からクーポン対象者(21・26・31・36歳)を除く。



4月に個別通知を実施して、10月までの受診者数を介入群と対照群とで比較すると、介入群は215人、対照群は73人で、コールによって33.4%増加した。

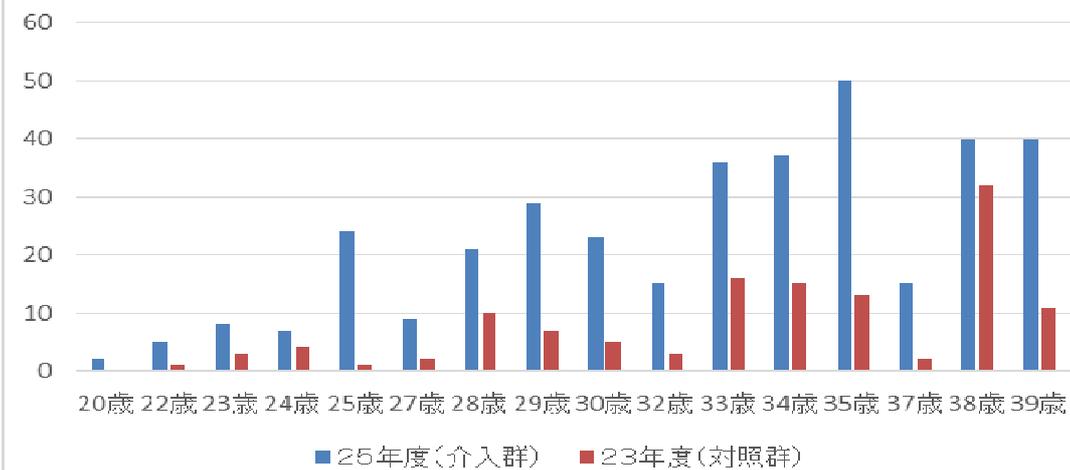
2) 再勧奨による効果

<12月分までの速報>

◆他年度同一年齢比較

介入群 H25年度年齢	受診者数 (人)	受診率 (H25年12月)	対照群 H23年度年齢	受診者数 (人)	受診率 (H23年12月)	受診率の差
20歳	2	1.3%	20歳	0	0.0%	1.3%
22歳	5	3.6%	22歳	1	0.6%	3.0%
23歳	8	4.6%	23歳	3	1.6%	3.1%
24歳	7	3.6%	24歳	4	2.0%	1.5%
25歳	24	12.6%	25歳	1	0.5%	12.1%
27歳	9	6.0%	27歳	2	1.6%	4.4%
28歳	21	9.3%	28歳	10	5.6%	3.7%
29歳	29	13.0%	29歳	7	3.6%	9.4%
30歳	23	12.1%	30歳	5	2.3%	9.8%
32歳	15	9.0%	32歳	3	2.2%	6.8%
33歳	36	15.9%	33歳	16	8.3%	7.7%
34歳	37	15.0%	34歳	15	6.3%	8.7%
35歳	50	19.4%	35歳	13	5.3%	14.1%
37歳	15	8.4%	37歳	2	1.6%	6.8%
38歳	40	15.6%	38歳	32	12.5%	3.1%
39歳	40	11.0%	39歳	11	4.1%	6.9%

他年度同一年齢比較(受診者数)



◆他年度同一年齢（20～39歳）受診者数

	11月	12月	1月	2月	3月	計
介入群 (H25年度)	119	27				
対照群 (H23年度)	43	9	3	5	7	

H23年（2年前）の同一年齢と比較すると、どの年齢も介入群の受診率が高い。特に35歳が、14.1%と大きな増加が見られる。

◆同一年度他年齢比較

介入群	受診者数 (人)	受診率 (H25年12月)	対照群	受診者数 (人)	受診率 (H25年12月)	受診率の差
39歳	40	12.9%	43歳	14	5.2%	7.7%

同年度（H25年度）の介入群 39歳と年齢の近い対照群 43歳を比較すると 7.7%の受診率の差がみられる。